

第3回多々良沼・城沼自然再生協議会議事録(概要)

- 1 開催日時 平成23年1月31日(月)
- 2 現地視察 12:30~15:00
多々良沼周辺、城沼周辺を視察
- 3 協議会開催 15:10~17:00
開催場所 邑楽町役場大会議室

議事概要

- 1 開 会
委員等の総数52名、出席委員44名(うち委任状2名)で開会
- 2 自然再生協議会委員について
専門委員 信澤 邦宏 氏 (元群馬県水産学習館長)
行政委員 小林 幹雄 氏 (群馬県水産試験場長)
の2名を委員に追加することを承認
- 3 報 告
(1) 木戸堰の開閉操作による水位低下の検証について
(2) 五料堰からの導水量の増加について
(3) 過去40年のデータの検証について
の3点について、資料-2、資料-3、パワーポイントにより事務局から報告
- 4 議 事
(1) 目標、取組及び役割分担について
について、資料-4、パワーポイントにより事務局から説明

(討議及び質疑概要)

(会 長)・この協議会では、多々良沼、城沼を良くしていこうという目標を達成するためにどんなことをやらなければならないかというところまでを、今年度の3月までに合意形成を図っていききたい。

・3点ばかり整理をしたい。

1点目、「大きなテーマ」については、次回に繰り延べることにしたい。

2点目、4つの目標(水質改善、生態系の保全、沼との関わりを深める、協働関係の構築)について、これでよいか、漏れはないか、議論いただきたい。

3点目、目標達成のための取組のメニューについて、これでよいか議論願いたい。

(委員)・景観という言葉の定義にもよるが、今日見学した感想では、現状でもきれいではと感じた。

・外来魚(バスなど特定外来魚4種)は、完全に駆除した方がよいのか教えていただきたい

(事務局)・外来魚については、利害関係者もいる問題でもあるので、この協議会で議論して、調整をしていかなければならない問題と考えている。

・沼の全般的な景観としては良い景観であるが、整備や修景により、もう少し良くなる環境をもっていると考えている。また、良い景観を維持していきながら、今以上に良くしたいと考えている。

(会長)・人の営みが係わって成立している景観は、継続的に維持管理していかないと悪化してしまう。多々良沼、城沼でも、ヨシ焼きなども含めたいろいろな努力が必要になってくると思う。

(専門委員)・外来種については、再生ということからすれば、外来種というのは、かつてはいなかったわけで、いないことを前提にした姿を描く必要もあるが、現実的には、技術的に外来種を全て駆除するということは極めて難しいということもあり、今後どうしていくかということについて当面は考えていく必要がある。将来的には、どのような状態が実現可能かということについては、現実と照らし合わせながら考えていく必要がある。

・水質問題について、水質が改善されれば、自然再生に繋がっていくことになるが、魚類の生息等のためには、水質だけではなく、生息場の姿かたちとか、植生との関連とも極めて密接な関連があり、いわゆる沼の構造といったものも併せて考えていく、生態系の保全のためにいろいろな施策をやるということも併せて考えていく必要がある。具体的にいうと、ヨシやハスは、水質の浄化もするが、そこに魚の生息場、あるいは産卵場もできる、しかし、それを放っておいては枯れて水質を汚すということになるので、具体的な施策の中で、今後検討していく必要があるのではないかと。

・魚や水生動物に関連して、多々良沼の水を減水あるいは増水するという事は、極めて重要なことで、具体的に手をかけていく上で、良い自然状態ができてくると思う。(増水することによって)田んぼの水の引きが悪いという話があるが、元々水路と田んぼで水が行き来していれば、当然田んぼの中で、魚が産卵をして増えるということがあるので、難しい問題でもあるけれども、魚の繁殖を考えることによって、自然が再生していくということも考えてほしい。

(専門委員)・兵庫の瀬戸内地方には、農業用のため池がたくさんあるが、非常に水がきれいだけれども、魚類としてはブラックバスとブルーギルしかいないという状態で、多々良沼、城沼は今はそういう状態ではないがそうなって良いのか、日本の中

でもうそういう状況になっている所があり、そういった単一の外来の魚の生息している城沼、多々良沼になって良いのかという問題があると思う。

・景観については、止水域には、城沼や多々良沼、特に水が溜まる場所には、ヨシやマコモ、そしてその後ヤナギが生えてきて、ヤナギが生えると、その下は光が届かないから、ヨシやマコモはヤナギの方には行かなくて、その周りだけすっぱり抜ける場所ができ、そこにスゲとかイネ科の植物とか半夏生とか、準に近いレッドデータブックの植物が生えてくる。そうしたヤナギやハンノキなどどのように景観に生かしていくかということをと大事にしていく必要がある。ヤナギやハンノキといった水辺のものは、洋服で言えばワンピースで、それを生かして、またそれと関連する絶滅危惧種の植物を復元していくことが、大事なことと思う。

(委員)・水がきれいになると、動植物も生きてくるということはよく分かる。

・多々良沼を公園化していくのであれば、これから先、どういった人が集まる公園にしていくのか、魚については釣り場のようにして人が集まるような公園にすればよいのではと思う。

(専門委員)・水質の改善のところの、d)の汚水処理施設の有効活用の中の、「自然浄化能力の向上」については、この項の中にあるのはどうかと思うが、もう少しクローズアップしても良いのではないか。植生浄化の場合には、枯れてしまうとまた栄養塩が溶出してしまうので、刈り取りとか維持管理が非常に重要となる。今日の見学では、非常に沼もきれいになっており、周りも随分整備されてきているので、何か可能性を非常に感じた。植生浄化の場合には、維持管理の面で大体ダメになってしまうので、その辺をきちんとすると、水質改善と生態系が同時にできる、という可能性があると思う。もう一度見直して、維持管理体制をしっかりとすると、このエリアはうまくいくかも知れない。

・2月とか冬場にクロロフィルa濃度が高いということの原因について、沼の水量が減ったことによって、滞留時間が長くなり藻類が発生するということだと思う。藻類の発生抑制には滞留時間を短くすることは非常に有効だと思う。基本的な解決にはならないが、藻類の発生による有害物質の発生抑制に関しては有効な部分もあると思う。流量調整に関しても水質改善というよりも、利水という面でも有効かなと感じた。

・久々に多々良沼、城沼を見学して、(沼の維持管理などに)非常に(地域の)勢いというものを感じた。この地域は、目標を達成できるのではないかと期待感をもっている。

(会長)・水質改善のためには、下水道とか合併処理浄化槽の整備とか、人工的な施設を考えていくという方法と、自然浄化能力、水草を使った方法とか礫間処理とか、いろいろな方法があるが、下水道とか合併処理浄化槽ということになると、行政が

なりリーダーシップをとっていかないとうまく進んでいかないところがある。広域行政としての群馬県庁のレベルでうまくやられないとなかなか進んでいかないところがある。

(県下水環境課)・県としては関係市町村と協同して、汚水処理、特にこの地域では、単独浄化槽から合併浄化槽への転換を進めている。21年度、22年度に転換を促進するため補助率なり、補助基準額の引き上げをおこなった。合併浄化槽への転換という浄化槽事業があるが、市町村の事業であるので、関係市町村の協力が必要となる。関係市町村には転換制度の創設と、補助基準額の引き上げをお願いしている。特に合併浄化槽は良いのですけれども、単独浄化槽は合併の8倍の汚水を発生するということなので、県としては、是非、転換制度と補助金額の見直しをお願いしたい。県では、23年度から単独から合併への転換を図るために市町村財政に負担をかけないように新たな事業制度を要望しており、この新たな制度が導入されることにより、自然再生が図られるのではないかと期待している。

(会 長)・邑楽町、館林市ともそれぞれ(汚水処理)事業を行っているわけですが、この協議会の結果として、この自然再生のためにも、そういったものが必要だということ論拠として、是非とも事業費をこれまで以上に獲得していただいて、事業の方向を進めていただければ、あるいは、群馬県知事にご要望していただければありがたい。

(委 員)・今日は城沼、多々良沼を見学したが、皆さん、これでよいのか。
・5、60年前、多々良沼を見て育った私達からは、今日見た弁天様あたりは本当に変わっていた。昔は、本当に良い多々良沼であった、皆さん、本当にこれでよいのか、変わりゆく多々良沼は本当に悲しい。こうすれば良いという意見がもう少しほしい。

(会 長)・人それぞれで、思い描いてる姿が違って、難しいとは思いますが、資料にある4つの目標に向かって進んでいく中で、委員のおっしゃるようなあるべき多々良沼、城沼の姿が、5年かかるか10年かかるか分からないが、あるべき姿の実現に向けて、一步一步近づいていくようにするしかないと思う。そのためには、目標の4つ目の協働関係の構築について、我々皆が知恵と力を寄せ合って、目標の実現に向かってやっていかなければならない。協働関係の構築、役割分担を本当にどうするかということは、これから具体的に詰めることになるかと思う。

(専門委員)・皆さんの顔の向きが同じ方向を向いている場合は協働というのはやりやすいが、ここでは、小さい頃の水質に戻すのが良いとか、あるいは、植生や絶滅危惧種を残すのが良いとか、いろいろな価値観が多々良沼、城沼のエリアの中で起こっているわけで、一つの解決策というのは難しい。重要なのは、4の目標で掲げられた協働、これは市民と県、行政との協働という意味合いもあるが、市民同士でいろいろ考えていくという意味合いも含まれているわけで、皆さんの中でご検討いただいて、そ

の着地点は最初から決まっているわけではない。時間はかかるけれども、一步一步進んでいかなければならない。自然というのは難しく、どこまできれいにするのかとか、どの程度の次元に戻すのかとか、目標は多様なものだから、とても難しいところだと思う。

・資料4の5頁目の協働関係の構築のところ、4つの取組が掲げられていて、中身も良いと思うが、もう一つ「場の醸成」ということを入れていただきたい。何か気づいたときに、さっと集まりが開けて、問題点を話し合うことも重要だと思う。どこか、自由に使えるような、皆さん方が自由に話ができるような場を用意していただけると良い。

(委員)・外来魚の話についてお話ししたい。今回この協議会で、いろいろ資料等を見て一番大事なことは水質というのは分かるが、やはり、外来魚を駆除するということが明確にできないのかという思いを強くしている。漁協組合の全国組織の中に内水面漁業協同組合連合会というのがあるが、資料にブラックバスは断固駆除すべしと書いてある。もう一つ、ブラックバスのキャッチ&リリースについて、リリースは魚を保護するために行う行為であって、(バスについては)絶対にやめるべきだという主張が資料に書いてある。なおかつ、ブラックバスは魚類だけではなく、昆虫とか甲殻類とかに対しても影響を及ぼすというようなことが資料に出ている。難しいというのは分かるが、こういう場で、ある程度方向付けして、それに向かって皆が一致していくことが必要だと思う。沼のあるべき姿、望ましい状態というのを、皆でしっかり議論していただければありがたい。

(会長)・ここでは議論していくことが大事。外来種に関していえば、確かに在来の生態系に悪影響を及ぼすから、それはできるだけ排除していかなければいけないわけで、それは揺るぎない事実だけれども、どこまでどういう風にやるのかということは、皆で考えていかなければならない。ここでは方向性だけは決めておく、ということではないか。

・来年度以降実施計画というものが、本当に具体的にどうやれるのかということは何年かかけて進められていくわけで、そのようにご理解いただければよいのではないか。

・私からも一言、意見というか、お願いを述べたい。

外部からきた観光客という目で、多々良沼、城沼を見ると良い所であるので、多々良沼・城沼の価値の普及、啓発というか、簡単に言うと、宣伝、PRというものを、やっていった方がよいのではないかと感じている。

・外部の人がたくさん来ると言うことは決して良いことではないけれども、こんなに外部の人が評価してくれるのかということで、地元の人がまた再認識して、これは大事にしなければという再認識に繋がっていく所もある。ありきたりの言葉で言うと、観光レクリエーション利用の推進なんですけど、目標のその3のところには、そういったニュアンスも入るようなかたちで付け加えていただけると良いのではないかと思

う。

(委員)・水質改善、生態系の保全、沼との関わりを深める、ということは、完全でなくてもやればできるが、最後の協働関係の構築というのは、非常に難しいという風に聞いている。そんな中で、現在の若者の動き、それから経済的なことが非常に関連してくるのではないのか。人材の育成の関係にしても、誰をターゲットにするのか、今非常に(環境に)興味を持つのは小中学生、あるいは定年を迎えられた人たちではないか、真ん中の人たちは一番大事なんだけれども、精一杯働いていて、とても参加できないということになっている。

(会長)・確かに働いている中年層でなかなかこういった取組に係わろうと思って、時間が無いので難しい。3月の資料のとりまとめに向けて事務局の方で、そういった観点も是非加味してほしい。

(館林市行政委員)・下水道を始めとする污水处理施設の整備について、市では、下水道の整備や合併処理浄化槽の整備などを行っているが、非常に費用のかかる事業であり、また、設置する側にとっても費用がかかることであるので、目標を定めて計画的に取り組んでいる。市内全域で約70%ぐらいの污水处理の普及率である。

・鶴生田川の岩田橋の水質のこれまでの推移の報告について、岩田橋は、城沼を出た板倉町の地点であって、やや改善傾向が見られるもののほとんど横ばい状態ということだが、市ではこれとは別に市内の城沼に入る部分、5号橋という地点で水質調査をしている。そこでは、下水道の整備とか、工場排水の整備とかが功を奏していると思うが、かなり水質の改善は見られている。それにもかかわらず、岩田橋で水質が改善されていないということは、城沼が閉鎖性水域であること、あるいは、ハスとかホテイアオイが繁茂して、それが処理されていない、いわゆる内部生産等で汚濁が発生していると思われるので、河川、沼の直接の浄化対策がこの地域では必要だと考えている。

(会長)・4頁に、繁茂期のハス刈り等あるが、ご意見等踏まえて、ふくらませていただいた方がよいかも知れない。少しずつでも、ある地域では水質が改善されているということは心強い。

・テーマについては、3月で全部決めるというふうに固定的に考えないでも良いのかも知れない。今回多々良沼と城沼ということで、テーマを二つ考えているが、一体となってやろうということなので、テーマを二つにということの是非も含めて考えていただきたい。

(以上)